

【取扱い厳重注意】

とかして時間をいただいたということをおっしゃっておりまして、要するに、鈴木副大臣が強い問題意識を持っていて、官房長官から政府全体に指示を落としていただきたいという趣旨でセッティングをしたということもおっしゃっています。

○枝野前官房長官 逆に私が問題意識を持っていたのは一貫して、文科省がちゃんとやれです。文科省がちゃんとやらないことに対して、私はいらついていたんです。だから、こちらの主観としては文科省に対して、他省庁の分も含めて、他省庁というのは東電がやっていることとかを含めて、文科省が全部を集めて、自分のところの責任で整理して、ちゃんとアウトプットしろということをお願いしたくてやったんです。

○質問者 この評価を安全委員会にやってもらうというところはいかがですか。

○枝野前官房長官 これは当たり前ではないですか。少なくともオフィシャルには、一貫してこれで安全なのかどうかというのは安全委員会に聞いていたわけだし、ここは余り本質ではないです。文科省がちゃんと責任を持ってデータを全部把握しろと。

あえて言えば、ちゃんとやらないから文科省から離れたかったぐらいなんです。私は最初、保安院でもどこでもやるというニュアンスで動いていたんですけども、文科省がモニタリングはうちの仕事ですからと。だったら、ちゃんとやれということではないですか。うちの仕事ですからと言う割にはいい加減にしかやってないから、自分の役所で手元に持っているデータだけをちゃんと整理して出すなんて、そんな無責任なことをやっている場合ではないだろうと。文科省の仕事であるならば、モニタリングについては各省いろいろな人がやっている分を全部あなたのところで集約して、ちゃんとわかるように整理して発表しろという仕切りをしたかったわけですから、問題意識は全く逆なんですよ。

○質問者 確かに話の主眼は、モニタリングはだれがやるかという話だったとは聞いていて、2つ目の話は主眼ではないというふうには聞いて。

○枝野前官房長官 SPEEDIの話なんかはしてないです。

○質問者 してないんですね。

○枝野前官房長官 それは文科省が勝手につくった話です。

○質問者 とういうときに SPEEDI という言葉が出てないというのは、鈴木副大臣からシミュレーションという言葉は出ていましたか。

○枝野前官房長官 少なくともあった記憶はないですね。明確にないという記憶もないです。

○質問者 御承知のとおり、SPEEDIもこのときの仕切りで決まっている。

○枝野前官房長官 それはないです。全く違います。全く別のところですね。16日前後ということは一緒ですが、別です。

SPEEDIについては、そもそも別に呼ぶなり何かしているはずですが、つまり、ずっとモニタリングができない、整理されてないという話の問題意識と、14とか15ぐらいから記者とか報道とかいろいろ出てきて、何で出せないんだという話で、秘書官が何かを通じては、例の公式見解の基礎になる情報がないからできませんという話は入っていたが、そう

【取扱い厳重注意】

は言っても、みんなが注目しているこんな話が、そんないい加減なことでもいいのかみたいな話の問題意識があったので、SPEEDIの話で、どこかで呼べと言っているんです。でない
とやってないはずですよ。

○質問者 別の仕切りでやっているんですね。

○枝野前官房長官 別です。テーマが違います。

○質問者 わかりました。

文科省は、この評価にSPEEDIは含まれるという解釈で、原安委にSPEEDIの運用を移したと言っているわけなんです。

○枝野前官房長官 それは、官邸の指示でないのは間違いない。文科省が勝手にやった話。

そもそもSPEEDIの例の逆算の話の時点では、少なくとも明確にはSPEEDIがどこの役所の所管なのかを知らなかったから。とにかく、SPEEDIの関係者を呼べという言い方です。だから、来ていたのが文科省だったのか、原安委だったのかすら記憶にないです。

○質問者 避難というのは本当に人数が多いし、秩序だって、老人ホームは大変だし、行く先も大変だし、そういう判断をするときに本当に整然と行うためには、事前にマニュアルがあれば一番いいんですけども、そういったものについて、全然ないに等しいような状態だったわけです。何でこんなのができてないんだとか、その問題についてはどうふうにお考えになったんですか。

○枝野前官房長官 勿論全部細かいところを把握していたわけではないですが、まず10キロ圏内のところはないなりにあったけれども、機能しないという認識でした。つまり、地震・津波の影響とか、そのことで電気が落ちていて情報が伝わらないとか、本来のマニュアルどおりに動かすために連絡がつかないみたいな話で、私のところに上がって来ました。だから、そのときはまさに複合災害問題だったと思っていました。ただ、10キロから広げると、伊藤さんとかが苦労しているなという感じでした。

記憶も2つあって、複合災害のときにマニュアルどおりにどう動かすのかという話と、もう一つは狭過ぎるという話ですが、ただ、これは技術的な検証の中でやっていただいた上で御判断いただいた方がいいと思うんです。

難しいなと思うのは、まさに急性被曝を避けるための逃げ方と、今回の事故のような中長期的な影響ということを中心に考えて、逃げてもらわなければならないということの逃げ方と、それを事故の進行状況の中で見極められるのか、見極められないのか。見極められるんだったら逃げ方は違うと思いますね。

あえて言えば、今回は急性被曝を想定して急いで逃げてくれということをやった結果として、それしかないわけですから、非常に近い距離の人たちには御迷惑をかけたし、逆に飯館村なんかは急性被曝を想定したことについてしかない中で、長期的影響のことで逃げてくださいということの説得するのに物すごく時間がかかって、結果的に半月ぐらい遅かったのではないかと反省はあります。1か月半ぐらいをかけて説得していたわけで、もう半月ぐらい早くできれば、だけれども、そのことを想定したマニュアルとか制度には

【取扱い厳重注意】

なってなかったですね。

○質問者 たばこをお吸いになりますか。

○枝野前官房長官 ちょうど半分。何分まで休みますか。15分再開ぐらいにしますか。

○質問者 15分再開で。

(休憩)

○質問者 続きで、先ほどちょっとお話が出たところなんですけれども、枝野長官がSPEEDIというものの存在をいつ認識されたかという話なんですけど、これはいかがですか。

○枝野前官房長官 正確な日にちは本当に覚えてない。ただ、逆算しろという指示が下りて実施が始まったのが16日だと聞いているんですが、そうだとすると、その指示を出したということは、その時点では認識をしていた。

その前の段階で、放射性物質の出ている量がわからないから使えないんですという説明を聞いて、そんな話があるのかということで、逆算すればできるのではないかみたいな話をした結果が16日に下りているので、そういう流れです。

○質問者 逆算の話につきましては、先ほどの16日の役割分担と結構関係していて、16日の役割分担で、評価は安全委員会がということになりましたので、文科省がSPEEDIの運用は安全委員会でよろしくねということで、すぐに連絡が行ってオペレーターを移すと。

もともと安全委員会の専門家の中に、SPEEDIの開発に関与されている方がいらっしゃって、マニュアルの中にも放出源情報がわからない場合については、逆算でやるということも書かれてありまして。

○枝野前官房長官 あったんですか。

○質問者 それで、久木田委員長代理にもそういう発想があって、■■■■さんという開発に関わった技術者の方も、それをやりましょうということで始めてはいるんです。その結果が3月23日になっているんですが、一方で、長官が逆算したらどうかというアイデアを出されたという話も聞いておりまして、それが伝わったのかどうか、ちょっとそこは我々の調査不足でまだわかってないところなんですけど、恐らくそういう御指示があれば加速した部分はあるだろうとは思いますが、もう独立に始めていたことは始めていたようでありまして。

○枝野前官房長官 その16日の前から。

○質問者 16日の移管後ですね。

○枝野前官房長官 私が言ったのは16日以降ではないと思います。なぜなら、文科省だと思うんですが、SPEEDIの担当者呼んで、あるいはつかまえて、もう一回どうなっているんだと聞いて放出源情報がないとできませんと言わせた上で、モニタリングがこんなに何か所もあるなら逆算できないのと詰めた記憶がありますから。逆に言えば、そこで安全委員会として独自にやろうとしていたのであれば、当然そういう話が入ってこないとおかしいです。

だから、私が逆算できるのではないのと言った時点では、自ら逆算するという発想のな

【取扱い厳重注意】

い人に向かって言いました。

○質問者 それは文科省ということですね。

○枝野前官房長官 としか考えられないです。ただ、私の仕事の仕方が担当者を呼んでくれで、一般的に何省を呼んでくれとやっていますので。

○質問者 もう一つ考えられるのは、小佐古さんが16日に内閣官房参与に任命されて、どうも18日付のペーパーでSPEEDIというものがありますよ、これを活用しましょうねというペーパーをつくられて官邸に持ってきているようなんですが、もしかすると、この小佐古さんのつくられたペーパーがきっかけなのではないか。

○枝野前官房長官 違うと思います。日にち的に違うでしょう。その16日以降で、移管は官邸の指示でないにしても、原安委が移管をされているという認識であって、なおかつ担当者として呼ばれていたら、それは始めています、やっていますと答えますね。私が指示したときは、そういう答えではなかったですから。だから、16日より前なんですよ。

○質問者 これは福山さんから聞いたお話なんですけど、日にちははっきりしないんですけども、16日～23日までの間のどこかで一度、SPEEDIというものがあるらしいので聞いてみよう。それで班目さんと呼んだと。そうしたら班目さんは、放出源情報がないから使えませんよと答えたという話を福山さんがされているんです。そこに同席されたということではない。

○枝野前官房長官 同席してないと思います。班目さんとそんな話はしてないですね。

○質問者 そうですか。

班目さんはそう答えられたのに、久木田さんと■■■さんは、別途計算はやってたということなのかなと思っていました。

○枝野前官房長官 そうすると、担当者と呼べと言って原安委のだれかを呼んだけれども、班目さんと同じ答えをした可能性は否定できないですね。ただ、だれかに言われてではないです。文系だから間違っただけを言っているのかもしれないけれども、今どきのコンピュータだから逆算できるのではないのと自分で思ったので、自分で聞いてみたんです。

○質問者 そうですか。わかりました。

○枝野前官房長官 これはだれかに言われたのではないです。

○質問者 SPEEDI そのものの存在をどこで耳にされたかというところについて、先ほどマスコミではないかということをはっきりと言われたように記憶しているんですが、長官の会見をずっと見ましても、そのころはSPEEDIという言葉が出てなくて、本当にずっと後なんです。

○枝野前官房長官 会見で聞かれたわけではないと思うんです。新聞とかテレビでやっていますでしたか。

○質問者 ずっと出てないですね。

○質問者 3月15日に文科省の記者会見において記者から質問が出ておりました、記者の間ではその辺りから話題に。

【取扱い厳重注意】

○質問者 15に出ているの。

○質問者 15に出ています。

○枝野前官房長官 あと、うちの秘書官は何か言っていないか。秘書官か、あとは情報が入っていると福山さんか寺田君か。つまり、情報があるのに隠しているのではないかみたいな話は物すごく神経質でしたから、よほどちゃんと見ておかないと、あるのに情報を隠しているという話が、どこかの役所でやってそうだとも思っていましたから。だから、例えばうちの秘書官室とか、寺田君とか、福山さんは物すごく敏感になっていたと思うので、多分その辺のどこかからあったんだと思うんです。

○質問者 わかりました。

逆に16日以前だとしますと、16日のモニタリングの役割分担のときに何らかの形で話題にしなくてもいいのかなという意識は。

○枝野前官房長官 モニタリングがばらばらでという問題意識と、SPEEDIがあるらしいけれども活用されていないという話は全く別次元ですね。

○質問者 わかりました。

それから、3月23日に逆算の結果が出たということで安全委員会の方がやって来たことについて、これはどうも結構長い時間帯にわたって、最後は総理のところまで行っていたということのようなんですが、御記憶の範囲内で流れを。

○枝野前官房長官 長い時間、総理のところということ自体の記憶が余りないです。

ただ、出てきたけれどもこれはあくまでも試算ですからみたいな、むにゅむにゅと余り自信なさげなニュアンスだったという記憶があります。

○質問者 今まで我々が調査したところでわかった事実としては、朝方、午前中に安全委員会の久住委員と、先ほども話が出ましたSPEEDIの専門で逆算を実際にされた[]さんという方が官邸にいられて、当初は細野大臣に説明をされて、官房長官に上げようということとで官房長官の部屋にという話を聞いているんです。

ところが、実際に総理の部屋に入ったのは午後2時半ぐらいでして、官房長官もちょうどお昼に、正確に言いますと、23日の11時～11時半の間は記者発表をされていて、安全委員会の方と細野さんがどの段階で長官室に入られてきたのか、それで分断されて、また話が続くのかなど。午前と午後で話が違ったんだろうとか、どんな話の展開があったのか、ちょっとよくわからないところではあるんですが、そこら辺は順序的にどこで話をされたとか、余り御記憶はないですか。

○枝野前官房長官 23日にSPEEDIの試算結果が出るというのは、多分前の日の夜に聞いていると思うんです。明日発表しますという話を聞いて、半日違いなら隠したと言われないうでいいだろうなというのを了解した記憶があるんです。23日の逆算結果の公表についての記憶はそのことが一番残っていて、詳しく説明を聞いて、余り記憶がないですね。

○質問者 ヨウ素剤の服用とか、避難の範囲の拡大とか、そういう話が一緒についてくる話なんですけれども、これは大変だなというふうに。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 ヨウ素の剤服用の話は、結局ブルームが飛んでいったときに飲んでないと意味がない。つまり、24時間ぐらいしか効かないもので、がっ和高い放射性物質が飛んでいるときに飲まないという意味がないものだというのは、どの段階だったか記憶はないですが、もっと早い段階でそういうものだというレクチャーを受けていて、理屈も聞いてそうなんだろうなと思っていましたので、少なくともこのときにヨウ素剤の話という意識はないですね。

避難区域の話は、23日ですから実測が大分出てきていて、これは福山さんの方が詳しいと思うんですが、そろそろ飯館村の説得に入っているのではないですか。

○質問者 まだです。

○枝野前官房長官 それはまだ入ってない。

○質問者 そのときは入ってないですね。

○質問者 入ってない。

○枝野前官房長官 そこで入らなければとか、そんなぐらいですね。とにかくある段階で飯館村を説得しないといけないんだけど、その当時は地元が何で逃げなければいけないんだみたいな感覚だったので、むしろ逃げたくないみたいな感覚だったので、ちゃんと説明しないと納得してもらえないみたいなことの方が、むしろ問題意識でしたから。

○質問者 わかりました。

そうしますと、23日の逆算の結果については、その後、2時半に総理のところに入って、総理の判断を仰ぐということになるんですけども、なぜ総理のところに入ったか、何の判断を仰ごうとしたのか。

○枝野前官房長官 そもそも私は入っていますか。

○質問者 入られています。

○枝野前官房長官 入っている。

○質問者 入ったところ、福山さんが呼ばれたようなんですが、小佐古さんも一緒に入られまして、小佐古さんと、小佐古さんと一緒に活動されていた空本議員もいらっちゃって、そこで班目さんと小佐古さんとの間で、ヨウ素剤の服用についていろいろ議論になってしまって、話の收拾がつかなくなったんで、もう一回仕切り直してちょうだいということで部屋を出たと。

○枝野前官房長官 私はいましたか。記憶がないですね。

○質問者 そうですか。

○枝野前官房長官 記憶がないというのは印象に残ってないんですね。

逆に言えば、北西部の長期被曝問題はちゃんと地元で理解して、順次出さなければいけないという感覚は持っていたのではないのか。今ごろ何を言っているんだみたいな感覚なのかな。

○質問者 もう少し前からモニタリングの結果として、データの的には16日からポイント32というところの線量が結構高いということがわかってきて、20日ぐらいまでにかけて避

【取扱い厳重注意】

難をどうしようかという議論はして、でも、線量がちょっと下がり始めたので、このままでいいだろうという話の矢先に23日の。

○枝野前官房長官 23日の逆算結果を見て、特別その中身についての印象がないんですよ。つまり、逆算したら予想どおりの結果が出るんだねと。逆に言うと、基本的には実測値でいろいろ考えていた話が間違っていない、裏づけられた、むしろそういう意識なんです。

逆に言うと、発電所のサイトの状況は安定をしてくれていますという状況の中で、新たにに逃げてくれという話をやるのは大変だけれども、これだと1年で100とかを超えるところが出てくるし大変だね、何とかしなければねという問題意識を既に持っていたのではないかな。

だからこそ、23日のシミュレーション結果に特別の驚きはなく、今さらヨウ素剤の話とかをしているんだったら、今ごろ何の話をしているのみたいな、どうやって理解してもらって順次避難してもらおうかという時期があったのは間違いないので。それが23日だったのかどうかは、ちょっと明確な記憶は正直に言ってないですが、逆に記憶が残っていないという事は、それぐらいしか考えられませんね。

○質問者 わかりました。

そうしますと、この2の避難関係のところに戻りまして、最初の○は飛ばしまして、モニタリングポイント32が、北西の30キロ外のポイントぐらいのところ、非常に高い線量が出たところなんです、これが先ほどから話に出ましたように、3月16日以降からちょっと高い数字が出ていた。

これについては、線量がこれからも高くなるのかどうかとか、それだったら避難しなくてはいけないのかとか、検討しなければいけないという話は早い段階からあったということでしょうか。

○枝野前官房長官 それは当初からありました。まず、まさに一点だけで、とにかくこの辺が高そうなんだから、この辺のモニタリングを強化しろというのがスタート。

最初の説明は一種のホットポイントみたいな説明だったので、そうはいっても、その周辺のところはちゃんと調べないと危ないのではないかという話をした記憶は、明確にあります。

○質問者 後ろに時系列があるんですが、時系列を見ていただきますと、3月29日のところに、原子力安全委員会がポイント32周辺の集積線量について、既に10ミリシーベルトを超えているところは、できるだけ屋内に滞在することを推奨する旨を官房長官に説明した。

官房長官が保安院に対して、飯館村のある地区と浪江のある地区に対して、30キロ圏外であっても無用の被曝を避ける観点から、できるだけ屋内退避を推奨する旨を町村に連絡するようにという内容の指示が出ているんですが、こういったことは御記憶の中にありますでしょうか。

○枝野前官房長官 明確な記憶ではないですが、まさに順次だんだんと線量のモニタリン

【取扱い厳重注意】

グデータと、23日のシミュレーションを含めて。それから、福島大か何かシミュレーションをやっているんですね。

○質問者 福島大ですか。

○枝野前官房長官 福島大か福島医大か何かシミュレーションをやっている、それを福島県庁と現地本部が持っているのに官邸に報告がなくて、それも怒ったんですよ。多分それの方が23日のSPEEDIよりも進化していて、年間積算線量の予測か何かまで含めて出ている、こんなものを福島県も持っているんだみたいな話をして、とにかく順次出ていってもらうようにしていかなければいけないねという話は、31日から議論を開始したというのが、どういう意味でこの期間の開始なのかなんですが、そんなに遅かったかな。もうちょっと早い段階から順次。

○質問者 関係省庁を集めて、議事メモがある。

○枝野前官房長官 関係省庁を集めてね。だとすると、私とか福山さんとの間、あるいは危機管理監とかとの間ではもうちょっと前からやっています。

○質問者 わかりました。そうでないと、ちょっと話が流れないなとは思ってはいたんです。

そうしますと、この29日なんですけれども、実はなぜかなとわからないことが一つありまして、ペーパーは3月29日付の官房長官から以下の指示があったということで、今の話が載っているんです。

疑問は何かといいますと、大臣官房総務課とありますが、これは経産省の大臣官房総務課で、あて先が原子力災害対策本部、ERCとあるんですけれども、実質的には保安院でして、ただ、中身は屋内退避、屋内に滞在するということでして、中身は本来であれば原災法の指示的な内容になってくるものですから、これがなぜ官房長官から保安院あての指示なのか。

○枝野前官房長官 しかも、経産大臣官房総務課。

○質問者 経由でですね。経産と保安院、実質的に重なっているということなのか。

○枝野前官房長官 ぐるっと同じ情報を回しているみたいな話ですね。

浪江の津島は浪江の津島として明確な印象はあるんですが、一貫して飯館村についてどうするかという議論をしていたんですね。つまり飯館村のどこかだけという議論は、基本的にはしてないんですね。そうはいつても、官房長官から指示があったという話では全く通ってなかったな。

○質問者 これが、計画的避難区域の議論につながっていく始まりかなという気がしております。

○枝野前官房長官 3月31日の各省を関連する議論の監視というのは、何をやっているのかわかりますか。

○質問者 まだ文部科学省は全体のモニタリングをやってなくて、30キロをちょっと超えた程度のところまでしかモニタリングをしていなかったものですから、もうちょっと幅を

【取扱い厳重注意】

広げてモニタリングをやることと、その結果を地図にプロットしてわかりやすくしろという指示が出たそうで、文科省が随時、毎日、日を追うごとに地図の更新をしていって、その線量の結果を見ながら、避難範囲の区域の決定というものを逐一やっていっているようなんです。

○枝野前官房長官 なるほど。こういう議論はどこかでしていますね。文科と保安院まで呼んで、官房長官室で大人数でやり始めたのがこの日ですね。この日なのか。もうちょっと前はやってないのかな。

これはアンダーラインかもしれない。相手の関係がある。[]が一度こっそり官邸に来たんですけれども、福山さんに会いに来たことにして私も会っているんです。これがいつだったかな。

○質問者 4月になってからではなかったですか。

○枝野前官房長官 これは4月かな。

○質問者 記録にあるのは4月に入ってからですね。

○枝野前官房長官 福山さんばちゃんとメモをとっている人だし、多分[]は表裏に来ているんですよ。

○質問者 3月29日に、同時に現地の意向を説明して、その結果が飯館村は避難であるという話があって、その後の話でしょうか。それとも事前に。

○枝野前官房長官 とにかく私は、避難指示を広げるとか広げないかを言える段階ではなかったし、あちらはとにかく広げないでくれというニュアンスの話を聞いて、とにかく地元とはできるだけ丁寧に意思疎通をしながらやりましょうねという話をしているんですよ。その時点では、会ってないことになっているんです。

それはある程度、飯館とかは逃がさないといけないみたいな話になっている段階なので、丁寧にやらなければいけないねということでやったんですけども、4月かもしれないな。

○質問者 ただ、先ほどの3月29日の指示も、同時に飯館と川俣にはちゃんと説明に行くようにという話をしてしますので、事前にそういう避難に対しては、抵抗するかもしれないという情報があったと考えないと変かなという気もするんです。

○枝野前官房長官 そうだと思います。

○質問者 あるいはピンポイントで屋内退避をお願いするわけですから、そこに説明に行けというのは当然のことかもしれないんですが、ちょっとその流れは。

○枝野前官房長官 多分この辺は福山さんの方が私よりも詳しくて、福山さんはかなりメモをとっているのではないかと思うんです。

○質問者 実は、3月30日はIAEAが現地を視察したときでして、避難すべきだという発表をされていまして、これというのは3月29日の。

○枝野前官房長官 それは30ですか。

○質問者 30なんです。翌日なんです。でも、こういうのは事前に情報が来るとも結構ありますので、もしかするとそれを把握されていたのか。関係ないですかね。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 それは関係ないような気がするんです。自信がないな。

少なくとも、26日に酒井さんが50ミリに近づいているという話を聞いているとすれば、その段階以降は、いかに早く逃がすかという話をしていたのは間違いない。私は酒井さんは物すごく信用していましたから。

○質問者 わかりました。

地元の説得が大事な作業だという認識。

○枝野前官房長官 それはどこかが持っていたのか、正直もうちょっといろいろな時系列の詳細がわからないと自信がないな。

○質問者 わかりました。

いずれにしても、線量が高いということは、結構早い段階から情報として入っていたことは間違いないですね。

○枝野前官房長官 はい。

逆に言うと、今の話の中で、私は30を超えている北西部のモニタリングが、そんなに遅い段階だということはいらついていたわけです。北西が危ないと言っていたから、ちゃんと調べろと言っていたのではないかという趣旨の問題意識を持っていたことがありましたから、先ほど文科省のモニタリングが、私からの指示を受けて30キロより遠いところもやり始めたという話は、何でちゃんとやってないんだみたいな問題意識があった記憶はありません。

○質問者 3月29日の自宅退避の話は、記者発表はされてないんですが、やはり飯館の方から。

○枝野前官房長官 地元でちゃんと説明した上でないとやらないでくれと。

○質問者 そういう配慮ですか。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 わかりました。

それから、長官の認識の中で、線量が高いのはここだけなんだろうとか、そういう問題意識はありましたでしょうか。ほかにもあるのではないか。

○枝野前官房長官 ほかにあるのではないかというのは、勿論ありました。ただ、ここはSPEEDIとの問題とかがいろいろ絡んでくるんですけども、早い段階から、なぜ北西のここだけ高いんだというのは高いモニタリングの出たところからずっと言っていて、最初のうちは谷合いか何かで、両サイドの雪が何かに積もって落ちたものが、全部集まるから高いんですみたいな説明を受けていて、本当かなとか思いながら違ったわけですけども、結局ブルームがいったときに雨だか何だかが落ちたからというのが正しいんです。谷合いだからそこだけが高いわけではなかったわけだけども、最初はそんなことを言った。本当にここだけなのか、ほかにもないのか、だからちゃんと調べろという問題意識は持っていました。

ただ、全体として順次ですから、いつの段階かと言われると難しいんですが、順次北の

【取扱い厳重注意】

海岸線とか南側とか、低いところも出てきたわけですね。近いのに低いところもだんだん出てきたので、それと23日のシミュレーション結果が合っているねという話で、やはり北西が問題だという話ではありました。

○質問者 そうすると、遠くても、30キロを超えていても高いところはあるし、逆に近くても低いところがあって、避難区域はもう一度ちゃんと整理しないといけないという問題意識になっていた。

○枝野前官房長官 少なくとも23日以降は、そういう問題意識を持っていました。

○質問者 実質的には、31日より前から始まっていたのかもしれませんが、関係省庁を集めて、後に決まっていく計画的避難区域等について検討されることになるんですが、そういう流れの中で。

○枝野前官房長官 そういう流れの中です。

○質問者 そういう問題意識の中で始まったと理解してよろしいでしょうか。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 今、残っている資料では、飯館村等に対する調整というのが、4月11日にコンセプトを発表しているのので、その発表の前の4月9日に、地元の情勢を踏まえて地元に行こうということになって、4月10日に松下副大臣、福山副長官、細野補佐官が地元に行って説明しましたという記録は残っているんですけども、それより以前に内々で飯館辺りとは話をしているのではないですか。

○枝野前官房長官 しています。

こっちは出ても構わないんだけど、XXXXXXXXXXこれはアンダーラインで。

それは官邸だったんですか。私は福山副長官室で会っています。わざわざそっちに行っただんです。私も会っています。私が1回会っているぐらいだから、もしかしたら福山さんは1回ではなくて複数回会っているのではないかな。

○質問者 先ほどのSPEEDIのところでは放出源情報はなくてもできるだろうと、至極当然のことをおっしゃっているわけですが、文科省の担当の部署すらそういうことを考えないと、いかに当事者能力がないかと思えるんですが、何でそんなことになっていると思われませんか。ほかの閣僚の方からも、文科省はどうだという話が聞こえる。

○枝野前官房長官 本当にこれも、今の立場だとアンダーライン情報かもしれないんですが、保安院と安全委員会は能力の問題だと思います。文科省については経産大臣の立場になったから言っているわけではないけれども、あの当時から、文科省は何かを隠したりごまかしたり、小さく見せようとしているのではないかと、何日目ぐらいからと言われるとなかなか難しいんですが、私たちは当時から不信感を持っていました。

そうは言っても、保安院とか安全委員会は、確かに能力には問題があったけれども、隠す、ごまかすことを意図的にやっているとは余り思わなかったし、今でもそうだし、3.11以降についてはそうだと思うんですが、文科省については正直に言って不信があります。

【取扱い嚴重注意】

○質問者 それは3.11以降、その前からの話ですか。

○枝野前官房長官 勿論前からの話。そこは正直に言って不信感があって、そんな話は別に数学に詳しくなくてもだれかが気づくだろうと。だから、多分だれかが気づいていると思うんだけどもみたいなことを言ったと思います。

○質問者 先ほどちょっと飛ばしました、2の避難関係で2つ目の○なんですけど、3月25日に20キロ～30キロの屋内退避区域で、これはオープンにされてやっているんですけども、これのいきさつとといいますか、なぜこのときにこのタイミングでこれをやったかというの。これはもしかして、先ほどの流れとは違うのではないかと。

○枝野前官房長官 先ほどの流れとは別の流れです。つまり、ここは本当に私もじくじたる思いなんですけど、屋内退避を指示したら、屋内退避をするだけで外から物資が入ってこなくなりました。

それから屋内退避は、屋内退避をしながら、病院とか高齢者から順次逃がしていくことを屋内退避の時点から考えて、若干ではあっても危機管理監以下のところではやっていると思うんです。

一方で、自主避難がどんどん進んでいってしまった。つまり我々が先に逃がしたい人たちではなくて、逃げられる人から逃げてしまって、なおかつ、外からの物資も入ってこない状況の中にあっては、外からものを入れるのと同時に、もうここまで来てしまったら出られる人は出してもらわないと、物資を運び込むとか生活インフラの観点からちょっと持ちこたえられない、そっちですね。

だから、自主的にどんどん逃げていくわ、物は外から入らないわ、何か解除はなかなか難しいわという状況の中で、正直に言ってそのロジの点で一番困って、逆に言ったら出たいけれども、出なくていいのかどうしようかと迷っている人には出してもらった方が、ほかの対応がしやすくなる。むしろ大きかったのはロジの観点です。

○質問者 ここは何というか、流通のこと、ものが入ってこなくて生活が困難になっているということが全面的理由になっていると理解してしまっていて、勿論もともと線量がそんなに高い地域ではないのでそういう説明になってくると思うんですが、これは特定の地域が念頭にあった話でしょうか。

○枝野前官房長官 何か所か、むしろ出ると言ってくれというオファーがあったような記憶があります。

○質問者 南相馬ですね。

○枝野前官房長官 市としてもそれを促して出すから、国として出ると言ってくれみたいなニュアンスの話はありました。ただ、それだけが決め手ではないです。全体の構造として、今の状態をキープするのは持ちこたえられない。正直に言って、部分的に解除したかったんです。北西は逃げろにして、ほかは解除するということを考えたんですけども、やはり解除が本当に難しいと言われて、むしろ出てもらおうか。でないとも生活がもたない。そっちの中の一つの要素として、確かに南相馬と言われれば南相場だったような気がしま

【取扱い厳重注意】

す。むしろ自主的に出ると言ってくれという話が地元からもあった。

○質問者 自主的に出ると言ってくれというのはなかなかわかりにくいんですけども、地元の自治体がそういうふうと言ってくれというのはどういう理由。

○枝野前官房長官 むしろ避難区域にしてくれだったと思います。少なくとも国が自主的にでも出ると言ってくれば、まさに将来的な補償とか行政的な負担とかも、国が持ってくれるでしょうと。別にそんなことを言わなくても、どうせ持つんですからみたいな話をしたんですが、そうはいつでも国から背中を押されたからやるんですでないと、将来の賠償とか、行政でかかった費用とかが心配だという不安。特にあのころは、まだ南相馬市長と信頼関係ができていませんから、おっしゃることはもっともだとは思いました。

○質問者 ネットになっているのは、やはり解除ができないというところだったということですね。

○枝野前官房長官 余り自分で検証していませんから、皆さん側の立場の仕事があるんだと。本当に解除できなかったのかどうかというのは。一つ私自身もどこかでもう一回調べてやりたい。難しかったのは、まず間違いなかった。それは直感的におわかりいただけだと思いますけれども、原発の状況がよくなっているわけではないのに何で解除するんだと、社会的にももたないねと。かといって、強制的にどうというような悪化をしているわけではない。なかなかどうしたらいいんだろうと。

○質問者 南相馬の桜井市長とは何度かお会いになっているんですか。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 そういう席で、はっきり言えと。

○枝野前官房長官 直接会ったときというのは電話で話したりとか、私が直接ではないですけども、あの人はいい意味での電話魔なので、官邸中枢のいろいろな人に電話をかけてきていて、そういったところから。むしろ避難しろと言ってくれみたいな声は、南相馬だけではないと思います。

○質問者 浪江町はいかがだったんですか。

○枝野前官房長官 南相馬は市長の個性が強いので印象にも残りやすいんですけども、南相馬だけでなく、どっちかという途中から早く避難の指示をしてもらって、ちゃんと国が逃げた人の責任を負うんだからという態度を示してくれというオファーが複数あったのは間違いなし、それはもっともだと思います。

だから、逃げてくれと、線量も低いのが大分わかかっていて、逃げなくてもいいところを逃げてくれと地元からのオファーがあり、早く逃がしたい飯館からは、何でいてはいけないんだと言われて、この逆方向の話がその4月の上旬ぐらいの一つの課題でした。

○質問者 次に、2枚目の広報関係。

○質問者 SPEEDI で1点だけ。

SPEEDI の公表の話でございまして、4月25日に統合記者会見の第1回目が開かれまして、細野補佐官からSPEEDIを公表しますと。それは官房長官の意向を受けて、今日決定に

【取扱い厳重注意】

至りましたという説明をされておりました、その4月25日の午前中に官房長官のところでSPEEDIの公表を含め、レクがあった記録があるんですけども、そういった場ですべて出すようにとか、公表するようにという指示をされた。

○枝野前官房長官 しています。こんなものがありましたと後になってから言ってきたから、何で出さなかった、さっさと出せと。役所は抵抗しましたけれどもね。

○質問者 そうですね。最初は非公表という紙で持っていったんですけども、すべて出す。それ以前に一度だけ、3月31日です。1か月ぐらい前の段階で、先ほどのSPEEDIをマップ化するという話が出ていて、その前日に福山副長官、細野補佐官の下で公表するかしないかという協議が行われておるんですが、翌31日の官房長官室での協議で公表すべきかどうかといった議論をされた御記憶はございませんか。

○枝野前官房長官 3月31日の段階で、例の逆算関連の話以外のものを2人は知っていたの。

○質問者 前日にはそういう協議がなされたんです。

○枝野前官房長官 公表したのはいつだっけ。

○質問者 4月25日。

○枝野前官房長官 何日前だったかまで正確な記憶はないですが、少なくとも3月16日以前の1単位当たりというデータの話については、それがあるといった話を認識した後の段階から出せと言っていましたし、出すまでの間、そんなに長い期間は空いてないはずですよ。そこはむしろ細野さん、福山さんに聞いてもらわないと。そこで何を話していたか。それは、25日に公表された資料ではない資料なのではないかな。

○質問者 実は3月の末から協議がずっと延びて、4月25日までかかってしまったという経緯があるようなんです。

○枝野前官房長官 それはないと思うんだけどもな。

○質問者 ちなみに、先ほど大量放出の話がありましたけれども、4月4日に、読売に気象庁がやっている拡散シミュレーションが。

○枝野前官房長官 そうです。先に隠しているのがばれたのは、気象庁なんです。

○質問者 これについては、翌日4月5日に官房長官が、これは公表すべきであったと話をされて公表になった。これは間違いないですね。

○枝野前官房長官 間違いないです。

○質問者 この気象庁のシミュレーションに関してなんですけれども、その後、4月14日に大量放出ではなくて、一定の仮定の下でのシミュレーションをやってほしいという依頼をするかもしれないという話がIAEAから来て、それをどうするか。IAEAに返すのは当然としても、国民に出すかどうかという議論があったようなんですけども、これについてはお聞きになっている。

○枝野前官房長官 これも結果的に出せと言っていないんですか。

○質問者 そういうふうに聞いております。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 基本的に、これは出していいんでしょうかと来たのは全部出せと言っています。瞬間的に出せと言っています。

○質問者 わかりました。

ここにちょっと伏在している問題で、4月25日に問題になる SPEEDI も同じなんですけれども、一定の仮定をしたものを、実際の数字ではなくて仮定ですから、幾ら入れてもいいわけなんです、そういう数字を入れたものについて公表することは、誤解のおそれとかもあるわけです。そこら辺についてはどんなふうに考えられていたかとか、指示したか。

○枝野前官房長官 誤解のおそれがあっても、シミュレーションしてしまったものは出すしかないでしょうと思っていました。だから、本来どうすべきかという、マスコミを含めて自動的に流れるようにしておいて、マスコミに判断させるしかないでしょう。政府が出す出さないの判断をするという話だったら、こういう御時世ですから、全部出せになるに決まっています。そうでなかったら政治的にもたないです。

○質問者 長官がそのときに、これはちゃんと誤解がないように説明をつけて出さないと指示をされているようなんです。

○枝野前官房長官 出せませんみたいなことを言っているから、そんなことを言っても、出さなかったことが後で誤解されるからだめだと。誤解されないように説明をつけて出すしかないんだと。シミュレーションをしてしまって公文書があるんだから、公文書管理法も施行されているんだから捨てるわけにはいかないでしょう。いずれ出てくるんだよと言ったかどうかはわかりませんが、少なくともそういう問題意識で、やってしまったものは全部出すで当たり前ではないか。ここは、私は一貫しています。

○質問者 わかりました。結局要請は来なかったようです。

先ほどの4月25日の全部公表の話になる前に、一度政府が SPEEDI データを隠しているということ、ある雑誌に書かれたことがあるようでして、そこからまた公表の話がぱっと盛り上がり、大量放出は公開とか、一定のシミュレーションをしたものについては数値が正確なものは出すとか、そういう区分分けをしたものが上がってきたようなんですけれども、やはりそのときも同じ考えで注意されたと。

○枝野前官房長官 気象庁のときから一貫しています。気象庁も最初は出したくない、こんなものがありますが、こんな誤解を受けますとかと持ってきたけれども、ドイツか何かに送って出ているんだらう、何を言っているんだと。そこは一貫しています。

○質問者 では、2枚目の方にまいりまして、今、話したものに通ずるんですが、広報に関して、長官が基本的なスタンスとして決めていたところを改めて。

○枝野前官房長官 ゆっくり話す、落ち着いて話す。明快に、わからないならわからない、わかることはわかる。それをできるだけクリアに話す。これぐらいですね。

○質問者 その記者会見のみならず、情報の公開といいますか、開示といいますか、それに当たってもいろいろ指示をされているようですが、それはできる限り出す。

○枝野前官房長官 できる限りというか、とにかく私はもともと情報公開法をつくるとき

【取扱い厳重注意】

からずっとやってきましたし、とにかくこんなときに隠してはだめだと。データは全部出せということの認識はずっと一貫しています。それだけに、若干いろいろなところで言われていることについては、正直に言って不本意です。

○質問者 わかりました。

次の○に移って各論的などところに入っていきたいんですが、保安院記者会見というのは3月12日に保安院が午前と午後、特に午後の方は明確に言っているんですが、中村審議官が、炉心溶融がかなり進んでいるという趣旨のことを発言されております。

いろいろヒアリングしますと、官邸の中に、官邸も聞いてないことをあんな形で発表するのはどうかという異論が噴出したと聞いておるんですが、これについて当時の長官の認識として、あるいはごらんになっていたかどうかとか、見てどう思ったとか、こういう指示を出したとか、そういうものがございましたら。

○枝野前官房長官 意外と早い段階から、中村審議官問題はマスコミとかで取り上げられているので、その段階から意識しているんですが、その時点で、その会見を見ていたかどうか自体の記憶がないです。

中村審議官がだれなのかと、経産大臣としては別件の仕事で、この人が中村審議官なんだというのを初めて知りました。多分12日の段階でもうそうだったと思うんですが、非常に俗っぽい言い方でこういう言い方をしていたんですけれども、大臣室で秘書官とか福山副長官とかには、とにかく東電も保安院も日本語をしゃべれる者を使えよというのは、何度も言っていました。勿論会見を落ち着いて見ている時間はないわけですが、NHKはずっとつけっぱなしですから、ぼっとしているとき、あるいは御飯を食べながら見ている、ちゃんと日本語をしゃべれる者にしろよというのは繰り返し言っていました。勿論意味としては、専門家でない人間でもわかるように論理立てて説明をしろと。

もう一つは、何で私の知らないことがほかのところで発表されるんだと。こういうロジでいいのかという話は3月12日の前からその後まで、ずっと言っています。繰り返し言っています。

○質問者 この炉心溶融に関しての記憶というのは、特にこういう特定の。

○枝野前官房長官 それはないです。

○質問者 全般的に、そういう情報の入ってこないことに対する問題意識というのは。

○枝野前官房長官 問題意識は勿論ありました。

○質問者 それは言っていたということ。

○枝野前官房長官 多分見ていたとしても、私自身も炉心溶融している可能性もあると。だけれども、どこまでいっているのかがわからないことにいらついていたわけです。もう溶けているかもしれないけれども、どの程度溶けているのかはわからない。もし見ていたとすれば、保安院が炉心溶融していると思うみたいなことを言っていたんだとしたら、ちょっとそのデータを持ってこい、どういう根拠なのか持ってこいと、そのときは炉心がどうなっているのかがわからなくて困っていたわけですから、むしろそっちにいきますね。

【取扱い厳重注意】

もしそうだったら、どういうデータに基づいていたのかを持ってこいと言っているはずだと、今、思うと思うので、それをしていないということは、炉心溶融をしていると思われるみたいなことをおっしゃっていたこと自体には、少なくとも反応してないんですね。

だから、あったとしても、そうだったら早く言ってよという程度で、私もこの時点では、炉心溶融している可能性がかなり高いと思っていたと思いますから。

○質問者 わかりました。あとはデータをということですね。

次の○の3つ目のボツは、1号機が爆発したときに、東電が官邸に届いてない写真を公表したことについてということで、これは御記憶があるかと思うんです。

○枝野前官房長官 ちょっと時間が経ってからですね。

○質問者 そうです。6時の記者会見をやられた後でしょうか。どうも写真があるらしい、勝手に公表しているらしいと。

○枝野前官房長官 そっちの方が明確に認識があって、明確に怒った記憶があります。

○質問者 これはどんな流れだったんでしょうか。

○枝野前官房長官 これこそ報道で見たのではないかな。秘書官かだれかが報道で、後から思うと水素爆発である爆発で崩れているのを、東電が発表していますみたいな話の報告がどこからあったか、たまたま自分でテレビを見ていたら流れていたかどっちなかで、あの写真はあるのと言ったら来てないと言うから、何だそれという話で。これは確かに明確に記憶があります。

○質問者 この写真はどうなっているんだということについては、貞森秘書官に指示された。

○枝野前官房長官 私は貞森さんに直接指示してないですよ。

○質問者 違うんですか。

○枝野前官房長官 総理秘書官ですから指揮権がないです。

○質問者 総理秘書官ですからね。

○枝野前官房長官 これもアンダーラインですけれども、総理秘書官が私の部屋に飛び込んで、総理を説得してくださいと頼まれることは時々ありましたけれども、私が総理秘書官に指示することはないですね。

だれにということではなく、東電いいかげんにしろ、ちゃんとこっちにも流させなければだめではないかということを書いて、たまたまそこにいた経産関係者が貞森さんだけだったから、自分が受けたと思ったことはあり得るかもしれないです。

○質問者 中村秘書官も同じような指示を受けたということ。

○枝野前官房長官 普通、指示するのは中村さんですよ。

○質問者 そうですね。

その報告はどちらかから受けましたか。

○枝野前官房長官 報告というのは。

○質問者 つまり、どうしてこんな写真が出たのかということ。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 この間には、東電に対しては完全に不信感の塊ですから、ちゃんと政府に対して報告をしないで、ものを隠す体質だと思っていましたからさもありなんという感じで、どこにどう報告しなければならないのか、物事の優先順位が決められない人たちだということとはよくわかっていましたので、なぜそんなことになったのかではなくて、こんなことをやらせるな、発表するには少なくとも先に、こっちに一言、同じ情報をもらえないと困るだろうということを言っただけです。

○質問者 それはどなたかに電話をされていますか。清水社長には。

○枝野前官房長官 この件だったかな。さすがに何かで怒って電話をしているんですよ。この件だったかもしれないですね。とにかくちゃんと政府に対して報告もしないで、勝手に物事を進めるなという話はしています。多分この話かもしれないです。

○質問者 わかりました。

そのほかに、恐らくその後だと思われるんですが、東電の方を総理執務室に残して、総理のいる前で、東電はこんな情報をちゃんと上げてこないんですよということを総理に報告して、総理からちょっとしかってもらったことはありますか。

○枝野前官房長官 あってもおかしくないですけども、記憶にないですね。

○質問者 これは12日の出来事ですが、13日に東電の社長が官邸に来られているんですけども、この件について謝罪という意味もあったのかなということですか。

○枝野前官房長官 社長が最初に官邸に来たのは13日ですか。それより前に来ていますか。

○質問者 13日の14時ですね。

○枝野前官房長官 初めてでしょう。だから、いろいろなものが重なっているんですよ。勿論ほかの危機管理対応が優先だけれども、普通官邸に詫びに来るでしょう。でも、全く来てないわけですよ。この件だけでなく、いろいろ積み重なっているんです。

○質問者 この件だけではなくていろいろですね。事故を起こしていること自体ですね。

○枝野前官房長官 そうです。とにかく政府を挙げてやってくれと頼みに来るものでしょう。そういう意味では、物すごくいろいろなものが積み重なっているときです。その中で東電も、私が見会で、何も答えられなくて困っているのを見ているのではないかという思いもありましたから、こんなことがわかっていたら早く伝えるよというのが、非常に積み重なっていました。ようやくやばいと思って社長が来たのではないですか。

○質問者 今の3つ目のポツから一つ二つさかのぼりますが、3月12日の18時の記者会見の中身を見せていただくと、情報がない中でいろいろな質問が飛んできて、非常に答えに苦慮されているところがあるようなんですけども、このときに記者会見を何とかやったということについては、やはりやらざるを得ないということ。

○枝野前官房長官 遅かったぐらいだと思います。定例は4時ですから、本当は早くやらなければいけなかったんですけども、何とか情報がないかと、ある程度情報を持ってやりたいと思いながら、ずるずる6時までかかってしまった。という意味では、もっと早くやりたかったですね。反省としては、同じ手持ちなしだったら、もっと早くやるべきだ

【取扱い厳重注意】

ったと思っています。

○質問者 ここに爆発的事象と例を挙げさせていただきましたけれども、これも正確に。

○枝野前官房長官 もう既にこの4時間でお気付きのとおり、準備をしてメモをとったり、あらかじめ何をしゃべるか、メモに用意してというタイプではないので、後からこの言葉が注目されているんですが、何かを意識して言ったわけではないです。

とにかく何もわかってないから、手持ちも何もなしで行って、わかっていることをしゃべり始めて自然に出た言葉で、特に村の人たちはそんな言葉を使っていましたから、それがインプットされていたのかもしれないですね。

○質問者 あと、2つ目のポツはそれほど大きな話ではないんですが、格納容器が破損してないということについて報告を受けていると。その後、理由としてと思われるんですが、その後に線量が下がっていますということが、メインの理由だったということでしょうか。

○枝野前官房長官 そうですね。

○質問者 班目さんとか久木田さんとかにお聞きしますと、むしろ壊れ方が水素爆発っぽいんだということもおっしゃるんですけども、そういう話は。

○枝野前官房長官 その手の話もありました。

○質問者 わかりました。

次の○に行きまして、3号機の官房長官記者会見です。これは先ほども伺ったところですが、補充的に何か聞くとこはありますか。

○質問者 補充的に、3月14日の未明に3号機の圧力が上昇しまして、一時作業員を退避させて作業員の退避を解除している。解除している意味は、圧力が一時落ち着いているからと。その退避している時間が6時50分～7時半までの間で、そういったことを11時の段階で初めて言われていたんですが、そこに若干のタイムラグがあるので、どういった理由でタイムラグが起きているのかということ。

○枝野前官房長官 その間に会見はやってますか。

○質問者 ないですね。

○枝野前官房長官 ないですね。正確には何時かな。10時半かな、11時かな。基本的には午前中と夕方の定例会見がベースで、それ以外に何かやらなければならないことがたくさんあって、1日に6回もやっていたりするという事だったので、上がり続けてやばい状態が続いていたらやったかもしれないですが、下がっていればこの間に起こったことで報告すればいいということだったと思います。

○質問者 最後の○ですけれども、放射線の影響に関する評価的な発表というもので、長官の会見を見てもこれはすごく難しい発表だなと思うんですが、多分16日が初めてだと思うんですが、直ちに人体に影響を与えるような数値ではないという表現を使われているようです。

それ以前は、体には影響がない値ですとか、直ちにというような言い方をされてはいな

【取扱い嚴重注意】

くて、これは何かレクの際にこういう説明があったとか、そういうことなんでしょうか。
○枝野前官房長官 16日と18日は、何のことについて言っていますか。北西の高い線量かな。屋内退避の話だったかな。

○質問者 「20キロから外側の近い部分についてモニタリングを開始して、その具体的な中身については文部科学省から発表していただいているかと思う。詳細な具体的な評価は、保安院あるいは安全委員会から報告してもらいたいと思うが、本日、測定され、発表された中身については、直ちに人体に影響を及ぼす数値ではない」、これは恐らくその日に、文科省が浪江町の30キロぐらいの地点に330マイクロシーベルトが出たことを発表して、それを指しているのかなと思われる部分です。夕方の記者会見です。

○枝野前官房長官 だれかに、直ちにという表現まで言われたわけではないと思います。ただ、先ほどもお話したとおり、この間は急性被曝を気にしていました。ある意味当然だと思います。

急性被曝ではなくて、累積の被曝での問題で初めて具体的に数字が出てきたのが北西部の高い線量のところ。それ以外のところは逃げています。

もうこの時点では私も相当詳しくなっていましたので、急性被曝では全然問題になる数字ではないけれども、相当高いから累積被曝では問題になるということは自分でわかっていましたから、そういった意味では、まさに急性被曝の問題はないということ。

ただし、長期的に累積している被曝についてのことについては、コメントできる状況ではない。これから急激に下がるのか、どれぐらい続くのかということについての評価はこの時点では全くゼロですから、ということが頭に入っていたのでこういう表現を使ったんです。

○質問者 東京新聞だったと思うんですけども、かなり時間が経ってから、長官の直ちという理解と保安院の理解は違って、長官はむしろ影響はないというふうに理解していた、保安院はあるというふうに理解していた。要するに、前提としてその答弁は保安院が書いているという書き方のような記事があって。

○枝野前官房長官 申し訳ないけれども、私は数字とかの話は別として、特に大事なところは役所がつくったメモをほとんど読んでないです。保安院が直ちという表現で持ってきて、それを読んだという認識は全くないです。

私の認識は、今、申し上げたとおり急性被曝について、リスクのある数字ではないけれども、そこに長期間いたら累積被曝量で問題になるのかならないのか、それはわからないということと言いたかったわけです。だから、たくさんモニタリングしろという話は同時並行で進んでいた時期だと思います。

○質問者 長官の理解としては急性被曝でない、累積被曝が問題とされるけれども、それを浴びたからといって全くないわけではないということが前提。

○枝野前官房長官 つまり、先のごことはわからない。直ちにということ、今から振り返って分析的に言えば、急性被曝が問題になる数字ではないですが、この線量のところに長

【取扱い嚴重注意】

くいて累積していた場合の影響については、今の段階ではわからないというのが当時の認識です。

○質問者 広報の在り方については、先ほどおっしゃったとおりでと思いますけれども、国民にいたずらに不安を与えると、あるいはパニックを起こさせてはいけないとか、そういうことを考えつつ、先ほどのスタンスの中でやられている場面は多くありましたか。あるいは、まずそういうことを考えておられたのか、おられてないのか。

○枝野前官房長官 極端なところでは、先ほど東電の全面撤退の話ですけれども、こんなところでも言っても意味がない話だし、どうせ事後的に検証される話だと思ったから、それはよけいなことを言わない。

それから、最悪の事態は何かと聞かれたときに、今、動いている原発について最悪の事態は何かと言われたら、答えは一緒なんです。そうでしょう。まさにその原発が一番悪い状況になったときにどうなるのかと言われれば、本当に最悪の事態というのは動いている原発もみんな一緒なわけで、最悪の事態ということで聞いていることの意味が、何を聞いているのかがわからないということもあって、最悪の事態については一種何も言わないというのはしました。そこはむしろ何を聞きたいのかがわからない。

逆に言ったら、その時点で次に予想される最悪の事態は想定していた。だけれども、行き着くところまで行ったらどうなるかと言ったら、津波で壊れてなくても日本じゅうの原発が一緒ですね。ということはこの記者さんたちは聞いているのということで、そこは意識しました。

でも、それ以外は、むしろ言わないことのパニックとかの方が大きいし、私は結果的に正しかったと思っているんですけども、公表される中身よりもどういう姿勢とトーンで発信しているかの方がパニックとの関係では大事だと、私は地震が起こった瞬間から思っていたので、中身で何か言ってしまうとパニックになるのではないかということについては余りというか、ほとんど意識しなかった。

○質問者 そうですか。

先日、海外の専門家をお呼びして話したとき、一様にこういう事故時の広報の在り方としては、真実をなるべく早くきちんと伝えるということを書いていて、それは全く同じですね。

○枝野前官房長官 全くそのとおり。

○質問者 メディア的には必ずしも正確な理解ではないですけども、例えばもっと早くメルトダウンがあったではないかとか、炉心溶融があったではないかと、東電はずっと後で発表していましたが、政府はもっと早く知っていたのではないかと、隠していたのではないかと、言っていますね。そういう点については、今、思いとしてはどんな思いを持たれていますか。

○枝野前官房長官 まず、前提として客観的にメルトダウンをしていたのではないかと、分析がもっと早くできなかったのか、あるいはどこかが早く知っていたのに我々に黙っ

【取扱い厳重注意】

ていたのではないかということは、是非皆さんに検証してもらいたいと思います。

ここは正直に言ってわかりません。ただ、例の中村さんの発言があって、翌日私も炉心溶融している可能性があると言っているんですが、むしろその後はしてない情報ばかりが入ってきているんです。データとしてこういうデータがあるからと説明されれば、こちらでもそれを前提にせざるを得ないです。

ですから、むしろ分析自体が正確で迅速だったのかどうかということが問題で、当然メルトダウンしているという分析が上がってくれば、ちゅうちょなく説明しています。

○質問者 東電の情報というのは、バイアスがかかった楽観的な情報が来ているのではないかという疑いを持っておられましたか。

○枝野前官房長官 ある段階、多分12日とか13日ぐらいから、少なくとも彼らの評価については、あてにしていまませんでした。ただ、さすがにこの局面で、データそのものでうそをつくことはできないだろう。だけれども、隠しているのはあるかもしれないなどは疑っていました。

それから、まさにメルトダウンしているかどうかというのは、結局データの分析なので、こいつらが上げてくるのは本当に正しいのかどうかという疑問は持ちながら、明確にしてないということも言い切らないようにはしていたと思います。今、出ているデータからは、してないことを裏づけるデータが来ていますとか、できるだけ客観的に正確に言おうと意識していたのは、結果がどうだったのかは知りませんが、何か分析とかを遅らせているのではないか、ごまかしているのではないかという不安は持っていました。

○質問者 国際協力関係のところに入らせていただきたいんですが、この3つポツがありますけれども、質問したい趣旨は同じでありまして、アメリカがどういう目的といいますか、意図で一生懸命情報をとろうとしていたのか。

それに対して日本はどういう姿勢だったのか。こちらはどういう認識で、どういう姿勢だったのかということでありまして、13の昼と14の夜と、また15、16の昼ごろにルース大使が官房長官のところへ電話がしたいということで、実際に電話をされました。おおよその話はお聞きしているところなんですけど、もう一度確認と、17日の電話会談の趣旨と、日米協議に至る流れといいますか。

○枝野前官房長官

○質問者

○枝野前官房長官

それは多分向こうの思い込みと同時に、ここは広い意味で官房長官の職責になるのかも

【取扱い厳重注意】

しれないので反省しなければいけないのかもしれないんですが、実務レベルでの情報のやりとりは必ずしもスムーズにしていなかった。つまり、報道をされる情報についても報道等を通じてしか伝わってなかったような感じがします。

その意味で守秘義務が関わるのかはわからないけれども、最近、経産大臣として知ったのは、保安院の日米協力の関係の窓口になるべき人間は、実は地震のときにアメリカにいて慌てて帰ってきたので、最初の1日ぐらいは連絡がつかない関係だったということは最近聞きました。もしかすると、それは影響しているかもしれませんという話は聞きました。

これは事務的というか、技術的というか、まさに専門家同士でやってもらわないと。保安院とエネルギー省なのか、向こうの安全何とか委員会なのかはわかりませんが、どうもそこがうまくいってなかったで、

だから、つまり事務的にも協議の場をとにかく丁寧にやらないとうまく意思疎通ができないということで、これは福山さんなんか頑張ってもらったので、官邸が持っている情報はこの程度なのかとわかってもらったと思うんです。自分では、その後のルーサーさんとの関係は悪くないと思っています。

○質問者 14日の夜のときに、

○枝野前官房長官 そうです。こちらとしては、ちゃんと保安院あるいは外務省を通じてでもちゃんと情報が行っているはずなのに、官邸に来て何の情報をとろうとしているんだと。逆に言うと、それからの経緯でこっちも不信感があって、正直に言ってそれこそ官邸に人を置いて、我が国の主権に基づく判断をコントロールしようとしているのかという思いがこっちにもありました。こっちは出しているつもりなのということだったので。

その情報を出すためには、別に官邸なんかにいる必要はなくて、保安院でちゃんととってもらえばいいという認識だったので、何のために官邸に常駐したいのか。まさに政治判断に影響を与えたいということなのかなと誤解をしました。

このときの反省は、当時の松本外務大臣が国際会議で海外へ行っているんですよ。そのときの臨時代理を慣習に従って私にしたんです。普通、官房長官は外務大臣が外遊するときの臨時代理なんです。ルーサーにしる、スタインバーグにしる、クッションが入らなくなっちゃったんです。普通だったら外務大臣なりがワンクッション入ってくれるのが、全部受けなければならなくなった。多分問題は17日だったと思います。これはちょっとひどかったですね。こういうときは、官房長官が外務大臣の臨時代理をやってはいけませんね。小さなことですが、すごい教訓です。

○質問者 このときに松本さんがいらっしやった。

○枝野前官房長官 多分17日の未明は外務大臣がいなくて、国務副長官からの電話、そん

【取扱い厳重注意】

なもののカウンターパートは外務副大臣だろうという話が、外務大臣がいない臨時代理が私なので、自分で受けざるを得なかった。

○質問者 今になって振り返って、なぜ当時はこんなに情報を欲しがっていたんだろうかと。

○枝野前官房長官 やはり情報がなかったんだと思います。

○質問者 一つには、独自の避難区域を定めなくてはいけないのではないかと。

○枝野前官房長官 それは逆に言うと情報がないので、あるいはないどころか隠しているのではないかと思いついて、情報をとって逃がさなければいけないと思ったのは、向こうの立場に立てば当然だと思います。だから、向こうがとろうとしていたことについては当然だと思っていますし、むしろコミュニケーションギャップはまさに反省点であり、教訓であって、アメリカに限らないですけれども、少なくともアメリカとの関係では、何かあったときでも信頼関係のある窓口同士で、これが政府の持っている全部の情報ですということを引きちんと伝えるラインをつくっておかなければいけない。一応形式的にはあったのかもしれないけれども、少なくとも全然機能しなかったということだと思います。

○質問者 日米協議は3月22日から始まることになるんですが、このお膳立てと申しますか、実質的な話は細野大臣とか長島議員とかがニーズを聞いてきて、官邸の中の関係する伊藤危機管理監とか副長官とか、いろいろお膳立てされて、最後は官房長官の決裁を得てと聞いていますけれども、そういう流れでしょうか。

○枝野前官房長官 そうです。外務副大臣もやっていますから、基本的には福山さんがやってくれていたと私は認識しています。アメリカとの関係は、基本的には福山さんに任せていました。任せていたから、福山さんはルースから私のところにがらがら電話がかかってきたことを恐縮していたというのが当時の状況です。なので、その組み立ての話も福山さんに任せていまして、私は最後に決裁しただけです。これは福山さんの仕事です。だから、各省調整を含めて誤解を解いて枠組みを立てるのに頑張ってくれたと思います。

○質問者 福山さんと細野さんとの役割分担について、何か御指示をされたんですか。

○枝野前官房長官 場づくりは福山さんです。

○質問者 実際の会議の回しを。

○枝野前官房長官 回り始めてから、自然に細野さんになっていったんだと思う。

○質問者 一点だけお伺いしたいんですけれども、日米協議の開始経緯につきまして、日米協議の枠組みを準備していたところは、内閣官房で指示されたのか、あるいは福山副長官から更に細野補佐官や長島議員の方に落ちていったのか、どちらかというのがちょっとわからないところがありまして。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 私は福山さんと相談をして福山さん頼むわという話で、福山さんは自分の仕事だと思っていたので、そこから先の詳細は当然報告されていると思いますが、任せているという感じです。

○質問者 わかりました。

○質問者 では、最後のその他。

1つ目は、3月25日に原子力委員会の近藤委員長が「不測事態シナリオ」というものを作成されておりまして、3月22日に総理執務室で、総理が近藤委員長に作成を依頼したと聞いているんですけれども、ここには同席されましたか。

○枝野前官房長官 この話は余り記憶がないですね。

○質問者 どういういきさつで、こういうものを作成依頼することになったのかということについては。

○枝野前官房長官 民間事故調に出ているとおり、特に14日～15日にかけてとかは、全面撤退したらどうなるのかということとは本当にぞっとしましたから、まさに最悪はいろいろな最悪があるわけですけれども、このままいったらどうなるんだというのは総理も物すごく意識していたので、いろいろな人に聞いていたということは知っていたと言うより、感じていました。行くところまで行ったらどうなるんだみたいなことをいろいろな人に聞いていたのは知っていますが、具体的に近藤さんに指示していたかどうかというのは、済みません。最近初めて近藤さんの顔と名前が一致したので、だれが近藤さんなのかわからない感じなので。

○質問者 3月25日の夕方ぐらいには細野大臣、当時の細野補佐官に提出されているようなんですが、当時はごらんになっていますか。

○枝野前官房長官 その後、紙が公表されていますから、それを見た記憶はないなという感じがそのときの印象なんです。ただ、話は、やはりあのときに行き着くところまで行っていたら大変なことになっていましたよみたいな話の説明は受けて、ただ、この時期だとそのシナリオは消えたねと。むしろどちらかという、先ほどの話のとおり飯館の話まで入っていたかどうかは別としても、中長期的影響の話をどうするんだと、本人も相当頭に来ていたので、そういうことにならなくてよかったねみたいなことで、一種スルーしています。

○質問者 このペーパーについては、さすがに細野さんとしても公表できなかったようですが、その相談とか、あるいは出した方がいいのではないとか、そういう話は。

○枝野前官房長官 私の記憶では、出すとか出さないとかという話以前にスルーしてしまったみたいな感じで、なるほどという話で聞いて、そういうシナリオに行かなくてよかったねみたいなことで、そのときはスルーしてしまっていたという記憶ですね。

○質問者 仮定の質問と言われてしまうかもしれませんが、ごらんになって、4号機の燃料プールが全部いかれてしまったらという前提で、東京まで避難しなければいけない場合もあるという内容になっているんですが、もしこの不測事態シナリオが自分のとこ

【取扱い厳重注意】

ろにあって、これは公表するかどうかという立場にあったとしたら。

○枝野前官房長官 公文書だったら公表しようとしたと思います。多分私が菅さんの立場だったら、公文書にならない形でどこかに、それこそ彼のお友達関係の専門家にシミュレーションさせれば、私的な文書で公文書でないんだから公開とかの問題にならないんですが、原子力委員長に依頼したら公的な仕事で公文書ですから、それが出てきたら公表する。しかも、その時点で公表しないという選択、事後公表という選択は、やはりないのではないかな。

○質問者 さすがに近藤委員長も、原子力安全委員会というクレジットにしないで出しましたと。

○枝野前官房長官 だから、それが公文書なのかどうか。でも、公文書なんでしょう。公文書だったら公開するしかないのではないの。

なおかつ、25日だったら、このままいってくればこうならないですがとクレジット付で言えますから、相談されれば出そうと言ったのではないですか。

○質問者 2つ目の方の○なんですが、事故発生後、安全委員会事務局だけではないんですが、内閣官房参与、あと広瀬さんについては内閣府参与なんですけれども、結構任命されているようですが、この理由といますか。

○枝野前官房長官 ほかの話と広瀬さんの話は質が全然違うと思います。広瀬さんについては、一種、私が主導しました。

これも本当に人のことを勝手に言っただけでもないけれども、私の認識としては、保安院長と原安委の事務局長が全く機能しないということが早い段階でわかっていた。でも、この2人が機能しないとどうにもならない。だれかいないのかといったときに、OBで両方のことがわかっている、その時点からはマスコミ的にはこんなに言われてなかったけれども、村の人間だから過去のことについてはいろいろあるかもしれないとは思いつつも、仕事ができるという評判は、持ってきた人間以外のところにいろいろ当たってみてもそうだったので、現職の保安院長とか原安委の事務局長に対しても役所的には上だから、それなりに押さえが効く。とにかく従来の事務局長と保安院長に仕事をやらせていたら大変なことになるという危機感だったんです。

どこかの大学の先生にもなっていたりしたのを、無理をして来てもらいました。

菅さんが選んだ参与については、今になって思うと、官房長官としてはもっと強く定めるべきだったのかなと、今、思うと思わないではないですけども、これも誤解を恐れずに言えば、あのときの総理大臣に対する精神的なプレッシャーというのは大変なものだと思うから、精神安定になるだけでも意味があるのではないかという思いはありました。

○質問者 これは菅総理にお聞きすることなのかもしれませんが、菅総理としてはブレンというか、専門家からの確な情報が得られない、ノウハウというか、知識が得られないストレスといますか、フラストレーションがあったんでしょうか。

○枝野前官房長官 それは物すごくあったと思います。それは我々も思っていました。

【取扱い厳重注意】

それは菅さんに聞いてもらえばいいんですけども、菅さんは昔からイベント型の仕事の仕方なんです。

ここから先は全部アンダーラインなんですけど、普通、選挙というのは普段から後援会をつくって、その後援会を選挙のときにいかに回すかというのが普通に言われている選挙ではないですか。彼の選挙は違う。選挙のときに、イベントのように人を集めてきて、ある時期から投票日までの間ぐつと走って、選挙が終わったらまたねという感じが、少なくとも私が初めて菅さんと知り合った15年ぐらい前の菅直人選挙だった。

だから、何か大変なことがあったから、大変なことに対してできる者をかき集めてというのは、彼の仕事のスタイルとしては普通で、彼のやってきた従来からの仕事のスタイルだと私は思います。

実際にルーチンで仕事をしている人が機能してないんだから、それはそれでやってもらう。とはいっても、こっちは菅さんと一緒に、この中にいらっしゃる人は霞ヶ関と一種闘ってきた中では、菅さんみたいに全部敵に回してけんかをして回らないし、もったいないと思ったので、機能しない役人はうまく外しながら、機能する役人の力をうまく引き出してやるしかないねという思いだったから、その仕事は私以下がやるから、菅さんは菅さん型の仕事をやってくれというのが、私の一種の割り切りでしたね。

○質問者 5人ぐらい参与を選ばれているんですけども、実際にワークしたというか、役に立ったとか、そういう話は菅さんから聞いてないですか。

○枝野前官房長官 わかりません。一種の菅さんワールドでやってくれという世界で、結果的にそこで知恵を受けても指示をしたり判断するのは菅総理ですから、あくまでもアドバイザーにしかすぎないわけなので、菅さんが何か言ってきたことに対して、それは違うからこうしましょうと言ったりするとか、それでいきましょうと言ったりするところの仕事が、そのことで重荷になるとは思わなかったの、どうせ1対1なり私と福山さんと細野君とかで違うと思ったら説得するしかないわけだから一緒なので、別に重荷にはならないと思っていたので。ただ、外との関係ではよけいなことでしたけれども、役に立っていたかどうか自体は、菅さんワールドでやってもらおうと割り切っていました。

○質問者 小佐古さんもその一人になるんでしょうか。

○枝野前官房長官 だと思います。

○質問者 小佐古さんは各省庁に働きかけをしたり、あるいは福山さん、細野さんにいろいろ提言を持っていったりして、やってくれという話をされているんですけども、もし、小佐古さんに対する現段階での評価的なものがあれば教えていただければと思うんです。

○枝野前官房長官 学者さんとしてどれぐらい立派な人なのかは別として、組織として仕事をするタイプの人ではないと思います。私自身は、いずれにしても菅さん問題なんだから、菅さんが自分のアドバイザーに求めたんだから、彼のアドバイスをとるとかどらないとかは、菅さんの責任でやってもらおう話だということで、私は彼に限らず物すごく割り切って仕事をしていました。私のアドバイザーとしてはうまみがない。

【取扱い厳重注意】

○質問者 今、お聞きしていますと、例えば原子力災害が発生した場合に、原子力安全委員会なんかには、法律上、緊急助言組織とかがありますね。結局今回は機能してなかった。それは人の問題ですか。それとも、何かほかに要因があるのでしょうか。

○枝野前官房長官 人が一番大きいと思いますし、結論みたいなことを言って申し訳ないですけども、我々も野党時代は三条委員会をさんざん言ってきましたけれども、日本で三条委員会を緊急事態に使うような組織でやってはいけません。それは物すごく強く感じます。

申し訳ないですけども、アメリカみたいに学者と行政マンと民間の人が、ぐるぐる同じ人がいろいろなポジションをやっているならいいんですけども、日本の学者さんは基本的に学者しかやってない人たちで、組織をマネジメントするというトレーニングなんかはしてないわけで、組織をマネジメントするトレーニングをやってない人が危機管理をできるはずがないというのが原安委の問題だと思います。

○質問者 最後の○ですが、5月上旬にそれまでいろいろありました本部が整理されて、このときに内閣総務官室の原総務官がいろいろペーパーを準備されたそうですが、これは官房長官の御指示。

○枝野前官房長官 それは私の仕事です。

○質問者 そのときの問題意識といいますか。

○枝野前官房長官 これもアンダーラインが、野党と世論対策です。つまり、本部が多過ぎてわけがわからない、けしからんというのがあの当時のバッシングの一番のテーマだったので、とにかく本部の数を減らせと。減らさなければ政治的にまずいから。ただ、実態は前後で余り変わってなかったんです。本部という名前をやめて、違う名前に変えたみたいな。

○質問者 聞いておきますと、指揮命令系統を整理されたとか、あるいはできるだけ早く決断できるように、念のための根回し先というのをできるだけ削って、きちんと核になる省庁に限るという整理をされた。

○枝野前官房長官 そこはむしろ原さんの仕事ではないですか。

○質問者 なるほど。

○枝野前官房長官 そういうときでないやりにくいからということで。確かにこうなりますという説明を受けたときに、それはいいし、こっちも削っとけというのをやりましたけれども、もともとの出発点は本部が多過ぎてわけがわからんという世の中の批判にとりあえず応えなければならぬので、それは一種の指揮命令系統。この本部の下にこれがあって、でも、どっちも本部という名前を使っているから訳がわからないとか、本部という名前だと、閣僚が集まってぐだぐだ話しているのが本部だと誤解をされているから、一応閣僚を上に乗せておかないと、事務局、各省から集まらないから、本部と上に閣僚級もつけているだけで、実態はその下の事務局会議なんですよという話が実態に合うように整理をしたかったというのがきっかけです。

【取扱い厳重注意】

○質問者 官房長官から、各チームの負担が大きくなるようにしなさいという御指示もあったと。つまり、今までの負担を整理して、効率化しましょうという趣旨。

○枝野前官房長官 出発点はそうですから、そのときにはどうせやるんだから、できるだけ整理しようねということはいいました。

○質問者 流れの中での質問は以上です。

○質問者 少し全般的なことですけれども、こういう原子力エネルギーに依存するというのは、歴史的に石炭から重油、原子力と変わる。それは政治と企業、産業なり何なりと、流れの中で必然的に出てきたんでしょうけれども、安全という目で見るときにこういう事態になってしまった。それはシステムづくりの歴史の中で、どこでどうおかしくなってしまったというか、あるいは抜けができてしまったのか、その辺りで、今回この事態に直面して、今後の在り方に関わって一番反省する点、その辺りについてお考えになっていること。

○枝野前官房長官 前段は、実は私は3.11まで原子力政策とは全く無縁だったし、あえて言えば近づこうとしてなかった。つまり、もともと私は原子力に消極的でしたので。かといって、大きな政治の構造として、3.11よりも前に原子力を縮小しようとか、やめようと言ってもなかなかリアリティーのある話ではない。少なくとも私は国会議員になって19年ですけれども、私が議員になったころから、それはもうでき上がっている構造だったので、ほとんど近づいてこなかったので、経緯自体がよくわからない。

今は逆に、今後の原子力政策を進める上でも過去のことを知らない方がいいと思っていて、過去のいきさつを関係なくどうするかを決めなければいけないというのが、今、経産大臣としての私の思いなので、あえて経緯の話を受けないようにしています。

ただ、間違いなく言えるのは、やはり安全神話が決定的に大きい。つまり安全神話は両面からあって、原発は安全だという前提に立ってあらゆることが組み立てられていた。

もう一つは、原発は安全だと言わなければならないので、実はここが危ないんだという情報があっても採用できなかった。両面において安全神話というのはだめで、もし原子力を使い続けるとすれば、危険だけれども使うという位置づけでなければだめだと思っていますので、これから危険だけれども再稼働しましょうと言いに行くわけです。

そうでないといけないと思います。危険だけれども使う。安全だとは言わないといけないでしょうけれども、絶対的な安全はあり得ないと言わなければいけない。

あとは原発そのものではないですけれども、危機管理ですね。一つは保安院も安全委員会も、やはり事故が起こらないことを前提にものを組み立てていたと言わざるを得ない。

当時の寺坂さんだったか、保安院長が文系だからと言い訳もしていました。これは世の中の評価はいろいろあるかもしれませんが、その後の、今の深野院長も文系ですが、彼は一生懸命勉強して、文系だという言い訳をしなくて済むようにちゃんとやってくれていると思います。だから、文系だったことが問題ではなくて、文系だからという言い訳をするような人を保安院長にしていたことが問題だと思います。

【取扱い厳重注意】

あと結論的に、私は電力会社に任せるのは無理だと思います。少なくとも電力会社と国が共同して事故対策・対応に当たらないといけない。そういう問題意識だったら、東電にまで来ていたテレビ電話システムが、本当は保安院にも官邸にもつながっていないといけない。それが最初からあっただけでも大分違ったのではないかと思いますね。

○質問者 せんだつての国際会議で、アメリカの大臣が原発は危険を伴うということを前提にして、安全に対して取り組まなければいかぬということを非常に強調されたんですね。今、おっしゃったように危険だけれども使うということが当たり前になっているのが欧米の認識だと思いますけれども、日本の国民性から言ったら、危険だったら使わない。一かゼロかになってしまう。

○枝野前官房長官 正直言って、今、経産大臣としては再稼働問題についての説明の仕方は非常に難しいし、ここは班目さんも、それにしても逃げています姿勢の言い方なんだけれども、言いたい気持ちはわかる。つまり安全だとは言えないという班目さんのこの間のストレステストに対する言い方は、その限りではわかる。だけれども、まさに一かゼロになってしまう傾向の強い国民性の中で、絶対安全とは絶対に言わないけれども、国民的な理解を得るにはどうしたらいいのかというのは、今、私の一番頭の痛い悩みです。本件とは関係ないので、そこの部分は線を引いておいていただけたらと思います。

○質問者 それから、防災対策というのは事故が起こったことを前提にして、どれぐらいのことをシミュレートして、前提にして初めてそこで避難対策というのが出るわけですがけれども、それがほとんどないに等しかった。それが歴史的な政権の継続の中で、引継ぎということは全くなかったのではないかと思うんです。

例えば新潟県の柏崎で火事があってから、複合災害対策の訓練をやろうとしたら保安院がストップをかけたとか、そういう経過があるんですけども、そういうことがチェックされずにずっと継続されてしまう体質をどうしたらいいのかという大きな問題があります。

先ほどおっしゃったように、安全を前提にして事故はないんだということだから、避難訓練も。

○枝野前官房長官 そういうことだと思うんです。

政治システムや行政システムの本質的問題みたいな話で、その答えを模索をしながら、これだという感じにはならないのが正直なんです。

そういう意味では、公文書に書かれると情報公開なのかもしれません。それでいろいろなことが後から出てくるという話で、そういう意味では議事録をつくってなかったことについては、私も責任の一端はあるのかなと思っているので問題なんです。議事録はつくらなかったんですけども、これは全部公文書管理で、いずれ情報公開の可能性のある文書だからみたいなことは、だれに言ったかは記憶がないですけども、私は早い段階から言っていました。だから、捨てるなよ、捨てたら問題になるぞという話は言っていたので、危機管理センターに届いている文書とかは結構ちゃんと残っているはず。これは公文書だから、都合の悪いのを捨てたりするなよということを伊藤さんに言ったのか、だれに

【取扱い厳重注意】

言ったのか、言っていたつもりです。ただ、公文書管理法と情報公開法がまだ徹底してなくて、隠そうと思えば隠せるという空気が、まだ霞ヶ関にも永田町にもあるというのを早く変えることかなと思います。

私の感覚からすると、隠そうとしても隠しようがないんだから、途中で出てきたときの不信感よりもちゃんと公開する方が大事だから、基本的に上がってきたものは出せとやっていたつもりです。

これもアンダーラインにしてもらわないと誤解を招くかもしれませんけれども、と書いていたんです。でも、それでいろいろな行政文書はいずれ出るんだという意識が徹底されれば、大分変わるのではないかと思うんです。

○質問者 ちょっと際どい質問ですけども、アメリカなんかですと、例えば1986年にスペースシャトル・チャレンジャーの事故があって、大統領が6か月で報告書と提言をまとめるといってロジャース委員会ができて、そのときにNASAを根本的に変えてしまうと同時に、徹底的な人事の入れ替えをやったんですね。勿論NASAの長官なんかはすぐに首にしてしまうとかですね。

今回の経過を見ていると、安全委員会なり保安院なり、そういう政府のお目付け役の機関が何となくずるずる来て、院長も委員長もずっと言葉を変えながらうまく生き延びているみたいな不思議な現象が見られるんですが、何かこういうものは国民的に言うと、どうなっているんだろうという感じがあるんです。

○枝野前官房長官 保安院長は海江田さんのときに替えてくれていたのが、今、経産大臣になってすごく助かっています。しかも、後任の人選も正しかったのではないかと、今、思っていて見えていますし、今の深野院長はかなりしっかりと頑張ってくれていると思っていますし、従来の延長線上でやってはだめなんだという意識で、保安院の中もかなり徹底してやってきているかなと。では、寺坂さんが退職金をもらって普通の辞め方をしたのはどうなのかという話は、日本的風土からすると、あそこで免職になって、退職金なしでできるかといったら、それよりも替えることの方が優先だったのかなと思います。

原子力安全委員会の方については、やはり三条委員会の身分保証の問題に行き着くんだと思います。替えたくても替えられません。

勿論政権が辞表を出せと迫れば、辞表を出させることはできたと思いますが、後任を国会同意人事で決められるかといったら、今はだれが出しても決められないです。この1年の間に後任を決められたかといったら、簡単ではなかったと。後任が決まらない状態で国会を同時にですから、2か月も3か月も、この局面で安全委員会がというのは、ちょっと政治的には考えられなかったと思います。

そうすると、三条委員会の独立性の裏返しとして、国会同意人事で首にできない仕組みで、こんな大事な仕事をさせておいていいのか。独立性も独立性で重要なのは間違いないので悩ましいなと思います。

【取扱い厳重注意】

○質問者 原子力規制庁に変わる前に、だれが規制庁の中心的なリーダーになったり、中堅管理職になったり、長官になったりとか、そうすると結局、今の保安院から横滑りするような形になるのではないのでしょうか。

○枝野前官房長官 恐らくそうなると思いますし、ここは少なくとも技術の部分のところの人間は、結局保安院から持ってこない限りは電力会社か重電メーカー以外にいるのかというと、いないですね。技術の具体的な細かいところがわかる人間というのは、結局村にしかない。では、村をマネジメントする人のところをどうやって持ってくるか。

あえて言いますけれども、細野君とは今度の規制庁の人事の話はまだしていませんが、村の人間で一番まともなというか、今回のことから教訓を受けているような人で、それなりのキャリアの人を持ってくるか、そうでなかったら今日の皆さんのお仲間かなと思います。検事とか警察とかでマネジメントしてもらおうか。正直、人がいないですね。ここは長期的にもいないんだと思います。

そうすると、せめてミッションがこれなんだということが大事で、従来のように保安院に行ったりエネ庁に行ったりと、同じ人間が両方を二枚看板でやっていることをやめることで、規制庁の人間はとにかく厳しく電力会社に当たることが私たちのミッションなんだという意識を持ってもらえるかどうかだと思います。

○質問者 今度、運輸安全委員会がこの4月から大組織改正と方法論の変更をやるんですが、そこで非常に注目をするのはミッションをつくっています。言わば憲法前文で、そこにはっきりとどういう意識でという内容で、恐らく安全規制庁の場合もそういうミッションのイメージが必要なのではないかと思います。

○枝野前官房長官 そうだと思います。

○質問者 今のお話ですと、組織は三条委員会が問題ですか。

○枝野前官房長官 ここは危機管理フェーズと平時とは違うのではないかという話は、確かにそのとおりなんですよ。だから、今度の規制庁だと、その規制庁の隣に一応三条のかな。恐らく国会同意人事での、今の安全委員会みたいな組織をつくりませんが、あくまでも責任を持ってやるのは規制庁で、その規制庁がやっていることを外からチェックするという形なので、主体的に何かやるということよりも規制庁をチェックするという立場なので、これならば危機管理の責任も規制庁長官になるわけだし、規制庁長官の下に、専門家でリスク管理もできる、マネジメントもできる人間を使えばいいという構造で、平時は第三者機関がちゃんとチェックするなら一つのやり方だとは思いますが。

○質問者 わかりました。

○質問者 長時間、ありがとうございました。

○枝野前官房長官 ありがとうございました。

大変大部の作業で、御苦勞様でございます。